

副理事長 宮脇昭メッセージ

森づくりはあなたが主役

誰が木を植えるのか

これまで木を植えて森をつくることなどは、多くの人にとっては他人事で、林業家が庭園をつくる人だけの仕事と思われてきました。しかし、私たちの周りからふるさとの森、遺伝子を守る本物の森が消えていっている現在、他人事としていてよいのでしょうか。森の消滅のため、日本各地では地震、火事、台風、洪水、吹雪などによって大きな被害がもたらされています。

森を単に木材生産や美化だけの対象として考える時代は終わりました。自分や愛する人、さらには隣人の生命を守るために、また共存者として多くの動物、植物が地球上で間違いなく未来に向かって生き延びていくために、いのちの木を植え、森をつくっていく—このことがようやく理解されるようになってきました。では、いったい誰が木を植えるのでしょうか。

私たちが、明日を生きる人のために

今こそ、明日を生きるために何をすべきかを、みなさんとともに木を植えながら考えるときです。一人、二人が木を植えても大したことはないと思うかもしれませんが、一人が10〜20本植えるとして、日本の1億2千万人が、地球の65億人が木を植えたとしたら、いったいどれだけ多くの森ができるのでしょうか。その森が、どれだけ防災・環境保全林、水源涵養林としての機能を果たし、どれだけ多くの心安らぐ場所を与え、どれだけ温暖化の元凶といわれるカーボンの吸収・固定に役立つのでしょうか。森をつくることで、今を生きる人、明日を生きる人のいのちをどれだけ守ることができるか、考えてほしいのです。

森は、幅1mからでもつくることができます。いのちの木を、大地に手をつけて植える。この、時には厳しいけれども心に響く静かな感動、喜び、素晴らしさを、あなたのため、あなたの愛する人のため、人類の今と明日、未来のために、さらに広げていきたいと願っています。

このメッセージは、NHK出版「苗木3000万本のいのちの森を生む」(著・宮脇昭)、河出書房新社「森の長城が日本を救う」(著・宮脇昭)より引用しています。

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト

副理事長

宮脇昭